

第3回 都市交通施策の再整理に関する検討会

議事概要

日 時: 令和 8 年 6 月 26 日(金)16 時 00 分～18 時 00 分

場 所: 中央合同庁舎3号館6階 都市局局議室

※事務局から資料に基づき説明がなされ、委員はじめ出席者間において、主に以下の意見交換がなされた。

- テレワークの普及により通勤時間は減少していると考えられる。人々が身近な地域へ外出したくなるような施策の検討も重要である。
- 今後、「待つ拠点」としての乗換拠点に関する議論についても深めていくことが重要と考える。乗換時に仕事や休憩ができるような滞在機能に加え、物流機能などの充実も重要である。
- 正のスパイラルの形成に向けては、負のスパイラルから転換するための支援が必要であり、また支援に依存し続けるのではなく、自立的かつ持続的な仕組みにしていくことが求められる。
- 都市構造レベルの議論を、具体的なエリア単位の議論につなげていく視点が重要である。
- 中間とりまとめには長期的な時間軸を前提とする施策も含まれているため、その点が分かるように整理した方がよい。特に都市交通軸の強化は、実現までに長い時間を要する取組である。
- 正のスパイラルへの転換を阻害し得る制度面・規制面の課題についても、さらに掘り下げて検討することが重要である。
- 運賃施策の事例として熊本市の共通定期券が挙げられるが、その取組は運賃面だけでなくサービス統合も含むものであるため、需要創造と併せて推進していくことが望ましい。
- 沿線への土地利用誘導は重要である。あわせて、公共交通とともに良好なまちを形成していくという住民意識の醸成が必要である。
- 需要創造が重要なキーワードだと思うが、公共交通のサービス水準だけにその言葉が使われていることには違和感。居住誘導や、生活サービス、医療・福祉など、様々な観点で移動の需要は創造され得る。また、拠点エリアと都市交通軸という 2 つの論点に対し、都市交通軸だけで需要が語られるのではなく、それらの関係の中で需要創造が図られるという視点が重要。
- 需要創造においては、都市全体の中で複数の拠点がバランスよく発展し、それぞれの魅力を高めていくことも重要である。
- 自動車交通の適正な処理については、都市交通軸の強化という観点からも、交通需要を適切にマネジメントすることが重要である。
- 歩行者の「安全」というキーワードも重要であり、ウォークアブルにも通ずる視点である。
- モビリティ・ハブは拠点・軸の双方で重要な役割を担うとされている。求められる機能や官民の役割分担は地域特性によって異なるため、その違いを踏まえた議論を深めるべきである。

- 需要創出に資するサービス水準については、具体的な基準や事例を示すことで理解が容易になる。例えば、熊本市のアンケートでは「待ち時間は 10 分以内であれば許容できる」と回答した人が約 8 割に上っており、このような事例は参考になる。
- プランニング、拠点エリア、都市交通軸の施策の方向性については、分野ごとに項目数が異なるため、交通施策、土地利用施策、両者の組合せといった観点で整理することで、それぞれの考え方や方向性の対応関係が分かりやすくなるのではないかな。

以 上